

## ■7月1日

## 新関空会社、ミャンマー・ハンタワディ国際空港、事業運営権に入札

新関西国際空港会社がミャンマーで建設が予定されているハンタワディ国際空港の事業運営権の入札に参加したことが30日分かった。大成建設などと組み、同国政府に提案書を出した。新関空会社は国内の空港運営で培った経験を生かして海外空港の運営に乗りだそうとしており、入札参加はミャンマー・ヤンゴン空港に続き2カ所目となる。日経が報じた。

ハンタワディ国際空港はヤンゴンから約80キロメートル離れた場所に計画されており、ミャンマー政府は、今後の航空需要拡大を視野に入れ、同空港に国際線を集約。現在のヤンゴン国際空港は拡張し国内線の専用空港に衣替える方針だ。

(日経)6/30

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF3000A\\_Q3A630C1NN1000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF3000A_Q3A630C1NN1000/) (->

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF3000A\\_Q3A630C1NN1000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF3000A_Q3A630C1NN1000/))

## タイ航空、新千歳—バンコク線、平均搭乗率76%好調

国土交通省東京航空局新千歳空港事務所によると、タイ国際航空が、週4便運航する新千歳—バンコク線の利用は就航後、今年5月末までの旅客数は5万6605人、平均搭乗率は76%と高水準。道の調査では、来道したタイ人は直行便が就航した12年10～12月の3カ月間で3800人と、10年同時期の約4倍に増えた。12年度のタイ人宿泊者も10年度に比べ登別市で3倍、層雲峡温泉で2倍に伸びている。

(北海道新聞)6/30

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/476643.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/476643.html>)

## JATA、夏休み海外旅行、ハワイ・アセアンが人気

(トラベルビジョンによると)

日本旅行業協会(JATA)は26日、大手旅行会社7社の募集型企画旅行の申込み予約状況(人員ベース、6月上旬調べ)の調査と、JATA会員各社48社212名を対象にした夏休み旅行の人気方面アンケート調査を実施した。調査によると、海外旅行は7月から9月の予約状況で、7月は前年比11.0%減、8月は4.0%減にとどまったが、9月は連休が2回あることも奏功し5.9%増と好調だった。傾向としては、シニアを中心に方面を問わず、ビジネスクラスやプレミアムエコノミー利用などの旅行代金の高いツアーへの参加者が増えたほか、遠距離に長期間旅行する「高遠長」傾向が出ているという。

方面別では、予約状況、人気方面調査ともにもっとも人気が高かったのはハワイ。予約状況では7月が3.9%増、8月が10.9%増、9月が28.3%増と3ヶ月とも前年を上回った。

また、人気方面調査では2位にシンガポール、4位にタイ、8位にベトナム、10位にインドネシアと、上位10位内にASEAN諸国4ヶ国がランクインした。予約状況を見ると、アジア全体では7月が13.9%減、8月が4.1%減、9月が7.2%増という結果だったが、今年は日・ASEAN友好協力40周年であることや、需要が落ち込む韓国などの北東アジアからのシフトもあってか、ASEAN諸国に人気が集まる結果となった。例えばタイは7月が27.2%増、8月が38.9%増、9月が98.0%増となった。

一方、JATAによるとアベノミクス効果からか、遠距離のデスティネーションへ長期間旅行する傾向も出てきている。ヨーロッパは、7月が16.3%増、8月が8.0%増、9月が13.5%増と好調に推移。人気方面調査で3位のイタリア、6位のフランスをはじめ、英国やドイツなど1ヶ国周遊ツアーがリピーターに人気となっているほか、定番の北欧やスイスも好調だ。

アメリカは7月が8.2%増、8月が3.4%増、9月が4.7%増と増加。新規就航路線のサンノゼ、サンディエゴなどの西海岸やデンバーに人気が集まっているという。このほか、旅慣れた旅行者にはペルーやアルゼンチンなどの南米への旅行も増えているとした。

(トラベルビジョン)6/30

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58066> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58066>)

(JATA プレスリリース)6/26

[http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626\\_shijo.html](http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626_shijo.html) (-> [http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626\\_shijo.html](http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626_shijo.html))

[http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626\\_natsudk.html](http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626_natsudk.html) (-> [http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626\\_natsudk.html](http://www.jata-net.or.jp/about/release/2013/130626_natsudk.html))

[net.or.jp/about/release/2013/130626\\_natsudk.html](http://net.or.jp/about/release/2013/130626_natsudk.html))

#### 国交省、航空燃料税減免措置継続、地方ネットワーク維持に米国制度参考

国交省は、交通政策審議会航空分科会の基本政策部会でまとめた中間報告を受けて、今年夏の2014年度予算概算要求に航空機燃料税減免措置の継続を盛り込む方向で調整する方針だ。また、現在は機体重量のみで算出・徴収される着陸料について、需要変動に伴うリスク軽減の観点から、国内線に限って一定割合を旅客数に比例して徴収する体系に変更することを検討する。地方路線の維持に向けては、地域が行う航空路線維持・充実活動を国が支援する新制度の創設を目指す。さらに、現在の離島航空路線の運航費補助制度について、要件などの見直しを検討する。日刊航空が報じた。

航空機燃料税減免措置の航燃税は2013年度末でこの措置の期限を迎える1キロリットルあたり2万6,000円が2011年度から同1万8,000円に減免措置の継続を求めていく考えだ。

また、来年度から、国内線着陸料の全体の着陸料収入額の2～3割程度をメドに、旅客数に着目した料金体系を導入する考えだ。これにより、景気変動やイベントリスク発生などによる需要減少に伴う航空会社のリスク負担軽減につながると見ている。

一方、地方航空ネットワークの維持方針に関しては、中間とりまとめで「国として、地域の取り組みを支援しつつ、必要な路線を支える様々な施策を講じていくことが必要」と明記された。これを受けて、国交省は今後、空港をかかえる地域が行う路線維持の取り組みを支援する制度の創設に向けて具体的な制度設計に取りかかる。その際には、米国におけるSCASDP(小地域航空サービス開発プログラム)制度を参考にする。支援制度の財源は一般会計からの拠出を見込む。加えて、地域航空会社の機材老朽化への対応も図っていく。

(日刊航空)7/1

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

#### 中部国際空港会社、貨物グループを新設

中部国際空港会社は6月25日付で組織改正を行った。従前組織化された貨物タスクフォースを、さらなる新規路線誘致や既存路線の維持安定化といった喫緊の課題に集中的に取り組むために体制を強化し、「貨物グループ」として新設した。

(日刊航空)7/1

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(中部国際空港株)6/25

[http://www.centrair.jp/corporate/release/\\_icsFiles/afieldfile/2013/06/25/130625\\_Boards\\_for\\_web.pdf](http://www.centrair.jp/corporate/release/_icsFiles/afieldfile/2013/06/25/130625_Boards_for_web.pdf) (-> [http://www.centrair.jp/corporate/release/\\_icsFiles/afieldfile/2013/06/25/130625\\_Boards\\_for\\_web.pdf](http://www.centrair.jp/corporate/release/_icsFiles/afieldfile/2013/06/25/130625_Boards_for_web.pdf))

#### ゴーエア(LCC)、客室乗務員、女性を重点採用、航空燃料使用削減策

インドの格安航空「ゴーエア」は30日までに、今後の乗務員採用について女性を重点的に雇用するとの方針を明らかにした。同航空で現在働く乗務員は計330人で、男性は130人。女性乗務員の積極採用方針を導入しても男性乗務員が人員整理の対象などにはならない。将来的には業界水準である男性3割、女性7割にしたいとしている。地元紙タイムズ・オブ・インドが報じた。

男性と比べ体重が平均15～20キロ軽い女性の積極採用で飛行時での機体総重量を減らし、価格が高騰する航空燃料の使用量削減を図るのが狙い。航空会社の営業経費で燃料費の割合は約3分の1に達するとされる。

(CNN)6/30

<http://www.cnn.co.jp/business/35034060.html> (-> <http://www.cnn.co.jp/business/35034060.html>)